

集落支援員だより

第14号

発行者 東和地域集落支援員
連絡先 66-2490
発行日 令和2年8月26日(水)



地域を想つ

今回は、下太田婦人会の菅野和子さん(太田杉ノ内)にひと言いただきました。



下太田婦人会
菅野 和子さん



私は、下太田婦人会の会長として5年目になりました。

婦人会の活動や会の現状、また地域のことについての思いを述べさせていただきます。

まず、会の活動ですが、東和ロードレース大会への協力・会員研修旅行・学習会・羽山荘訪問・なごみボランティア・公民館参加などです。この他、市婦連の事業にも参加しています。

次に会の現状ですが、徐々に会員数が減り今年度は28名です。婦人会の主な事業はほぼボランティアです。なかなか勧誘も難しいのが現状です。

この時期、新型コロナウイルスについて、触れないわけにはいきません。テレビを点けてもトップニュースはコロナ関連で、まず何名感染者が出て、対策をどうするかで四苦八苦。

全世界で流行拡大している様子で、今後どうなるか不安の日々を過ごしています。ついでに言うところ、悔しいという残念さというかオンラインピック延期と、朝ドラ「エール」の撮影中止(編集時点)。どうしてこの時期なの?と、ぼやきたくもなりません。

婦人会も市婦連の年内の事業は全て中止。我が会の活動も今年度は県道沿いと、とつわごも園の花植栽のみを実施したところです。

例年なら東和ロードレース大会への協力があったが中止となり、会員同士が一致団結して取り組んでいる一大事業手作り梅干しと麦茶の接待なので、予測はしていましたが、中止の通知が来たときは落胆しました。また一方で、手間ひまがかかる梅漬け作業から解放されると安堵したのも事実です。

何もしないと楽ですが、何も生まれない、達成感もない、緊張感もない日常になってしまいます。この状況が続くと、会員同士が顔を合わせること減り、会の基本にある「仲

間づくり」はどうなってしまうのか心配でもあります。

思い起こせば、地域でもこのような状況が何年も前から出てきていると思います。行政区でも、お祭りやスポーツ大会も無くなり、寂しい思いでいましたが、数年前からグラウンドゴルフをやるようになり、楽しいひと時を過ごせています。改めて、隣近所つながりの心地よさ・大切さをかみしめているところです。気心の知れた人が集まっている地域は、安心して暮らせるのではないのでしょうか。都会では得られない、ここでの暮らしを大事にしていきたいと思えます。

東和で頑張っている方

小林正典さん、生まれは、東京都町田市、以前は会社勤めをしていたそうです。



戸沢一区
小林 正典さん 愛枝さん

小林さんが東和を知ったのは、今は東京有楽町にある「ふるさと回帰支援センター」で、何度か足を運んでいるうちに、農業は自分には未知の分野で関心があり、農業は面白い、また耕作放棄地の再生にも興味を持っていたので、東和を第二の故郷として選んだと言っていました。

2011年3月15日に東和の地戸沢落合に根を下ろし、来るや否や、「こかくやれるものは何でもやってみよう」と思い、ありとあらゆる作物の栽培に手を出したが、農業に対するノウハウも持ち合わせていない素人が成功するはずもなく、ことごとく失敗となったようです。

そのような経験を踏まえ、地元の人達の協力もあり、ある程度作物の種類を制限した農業形態とし、今は水稲(9反歩)、鶏(250羽)、キュウリ(2反歩)、他に玉葱、キャベツ、ジャガイモなども作っています。中でも、鶏は平飼いし、配合飼料は与えず、無農薬で「コシヒカリ・シヤガイモ・キャベツ」等、人が食べる物を与えて飼育しており、甲殻飼料のみ餌として使います。ケージ飼育と違い、卵の生産量は少ないが、質の良いものを食卓に届けていますと言っていました。

今、キュウリの収穫が最盛期となり、忙しい日々ではありますが、今

後は、農閑期冬期でも収支が得られる農業形態(ハウス栽培)にもチャレンジしていきたいとのこと。

最後に東和に住んでの感想を聞くと、静かでよい所、何でもやれる事が楽しい、地元にも慣れ親しんで、不便さは全く感じないと奥さんも言っており、農業は日々の成長と達成感が味わえるので、やりがいがあるとも言っていました。

言葉の壁などもあるでしょうが、アイデアを出して頑張ってください。応援しています。

隠れ文化財

太田前石田 渡辺八百太句碑

江戸時代末期から大正時代頃まで東和地域では、教育、文化及び各界において多大な功績を残した著名な郷土出身者が多くいました。

中でも知名度が高いのは、太田萩ノ田出身の荻生天泉で、その名は、誰もが幾度となく耳にし、聞き覚えのある人物であります。

今回、その荻生天泉の曾祖父である俳人荻生児川の門をたたき、俳句を学んだ太田前石田出身の渡辺八百太を紹介いたします。

俳人渡辺八百太は、太田前石田の渡辺弥平治の七男に生まれ、根っからの学問好きで、荻生児川に入門し、書や俳句を学びました。明治三十年頃、京都の俳諧師花ノ本聴秋に入門、俳句詠「こほれ松

葉」の同人となり、師事する者も多かったといわれています。

当時渡辺八百太は、松尾芭蕉の俳句を手本に、蕉風俳諧と八世知足庵を授けられました。大正八年大阪府下泉町北郡陶器村天台宗光明寺住職と全国行脚、奥の細道の途中八百太宅に逗留し、地元の俳句愛好者が大勢集い俳句をだしなんだと伝えられています。

次の句が、後継者により八百太自宅(前石田)下に、大きな土台石のもと建立され現存しています。

「香に曇る空にくからず花の月」

(大正十二年大正風俳人名鑑)

「光もつ山の夜明けはやほとぎす」

(大正十五年に発行された俳諧全集)



▲ 渡辺八百太の句碑

句碑は長年の風雪に耐えたその前に立つと、当時の郷愁にいざなわれるようです。一度足を止め句碑の前に立ってみ

てはいかがでしょうか。遠い昔が忍ばれます。渡辺八百太の生家は、太田前石田の渡辺和次さん宅です。

東和で活動している団体

「とうわ奥入瀬を守る会」の活動が開始しました!

六月から九月まで数回に渡り川法面の草刈り作業が行われ、とうわ奥入瀬を訪れる人達の、目と心を癒しているものと思われま。

今回、環境整備は、川法面の草刈りはもちろん川中の清掃も行おう事とし、川の淀み付近に停留しているビニール類、空ペットボトル、シユースの空き缶、台所用品から車のタイヤまで回収されたものは、わずかの時間でビニール袋数個と予想をはるかに上回る量でした。

馬洗い川沿線に住む人々が、川から引き込んだ堀の水で、顔を洗い、歯を磨き、



▲ 川法面の草刈り作業

野菜等を洗いそれらを食していたのは数十年前の話で、川は生活の一部となっていました。

現在では、生活様式は変化し、会は「魚の住める川を取り戻そう」を目標に活動を進めています。また、蛇が淵付近には水道施設も設けられ、太田地区の生活用水の一部を賄っております。

そういった中、個人個人の意識を変えるということはなかなか難しいとは思いますが、隣近所での井戸端会議のときにも川環境の話も出してもらえればと思っております。

地球規模で環境問題がとり立たされている今、地域の生態系を守り、次世代に託すことは、我々の使命ではないでしょうか。今、とうわ奥入瀬を守る会の活動が地域の安心安全に繋がりますようお願いしております。

「集落支援員だより」は、東和地域の情報や地域活動等をお届けしています。どんな小さな活動でも取材に行きますので、載せたい情報等がありましたら、集落支援員までご連絡ください。

感染症予防には手洗いうがいの徹底はもちろん大切ですが、自己免疫力を保つために適度な運動、バランスのとれた食事、十分な睡眠も大切です。

東和支所地域振興課 (集落支援員) 66-2490